

ピンク色の帽子を被ったり、ランチルームで食事をしたり、階段を上り降りしたり…いろいろなことにドキドキワクワクしていた4月から早くも1年が経とうとしています。幼児クラスになり、大きなプールや運動会、バス遠足、劇遊びなど様々なことを経験しました。友だちや保育者と一緒に取り組む中で、たくさんの喜びや楽しさを味わいながら心も身体も大きく頼もしく成長したことを感じています。特に先月の劇遊びでは、絵本『もりのおふろ』のお話をテーマに、登場する動物を子どもと一緒に考えるところから少しずつ作り進めていきました。お面をつけて劇遊びに取り組む中で、子どもたちから「うさぎはにんじん持ちたい!」「ねこはお魚がいいな〜」などアイデアが生まれ、小道具作りも意欲的でした。また、劇中の歌や言葉も子どもたちの表現から変化が見られ、うさぎ組オリジナルの『もりのおふろ』となりました。言葉を合わせたり、動物になりきって表現する姿を認める中で友だちの存在にも目を向けて、みんなで一緒に楽しめたすてきな劇になりました。

4月からはみんなが心待ちにしているひつじ組です!「4月から何組?」と聞くと「ひつじ組!楽しみ!」と心を躍らせています。嬉しい気持ちで進級を迎えられるよう、残りの日々もともに一日一日を大切に過ごしていきたいと思います。



劇遊びをひつじ組と  
ぞう組に見てもらった日のこと…

保育者「明日もお客さんが来ます!」  
子どもたち「ええ!」

保育者「明日は一人だけ、カメラマン  
さんが来てくれます」

Aちゃん「一人だって!」

Bちゃん「一人なら頑張れるね!」

初めての大勢のお客さんに  
ドキドキしていた様子が  
伝わる場面でした。

ひつじ組での生活も残すところあと1か月となりました。これまで一緒に笑ったり喜んだり、時には怒ったり、けんかをしたりしながら、その都度立ち止まり、みんなで考えてきた時間はとても大切な宝物です。友だちの表情を見て、思いを感じ取ろうとしたり、自分の気持ちをどう伝えたらよいか考えたりする姿に、この1年の成長を感じています。

先日の保育参観では、絵本『11匹のねこ ふくろのなか』をもとにした劇遊びをお家の方に見ていただきました。「ちょっとドキドキする」と話していた子どもたちでしたが、いざ始まると大きな声で堂々と表現する姿や、やりきった後の誇らしげな表情に、頼もしさとともに「大きくなったなあ」としみじみ感じました。これまでの取り組みを通して共有してきた楽しさや喜びが心に残り、これからの自信につながっていくことと思います。

そして、いよいよぞう組への進級が近づいてきました。「ぞうぐみになったらね…」と目を輝かせて話す様子に楽しみにしていることもたくさんあるようです。ひつじ組で経験してきた一つひとつが子どもたちの力となり、進級への喜びにつながっていくことを願っています。残りの日々も、子どもたちの期待や思いに寄り添いながら、大きくなった喜びを感じ、毎日大切に過ごしていきたいと思います。



ひつじ組の保育室で  
ヒヤシンスを育てています。  
ぞう組もうさぎ組も、花を咲かせて  
いることに気づいた子どもたち…

Aちゃん「なんで、ひつじ組のヒヤシンスは  
まだお花、咲かないんだろう?」

Bちゃん「一番最後になっちゃったじゃん!」

Cちゃん「もしかして、最初の頃(根っこが  
出てきた頃)、みんなで、もやし  
みたいだね!とか言ってたから  
怒ってるんじゃない?」

AちゃんBちゃんCちゃん、3人で  
顔を見合わせて…

「大変だー!あやまりに行こう」

その後しばらくして、小さな  
かわいい白いお花を  
咲かせてくれました。

ぞう組での生活も残すところ1か月となりました。先日、「保育センターで楽しかったことは何か」を聞いたところ、異年齢の友だちを招いた“スペシャルコンサート”や“お泊まり保育”、“運動会での創作ダンス”や“ページェント”など、たくさんの思い出話に花を咲かせていました。

先月の劇遊びでは、一人ひとりが自分の役割を持って友だちと助け合い、みんなで一つの目標に向かってパワーあふれる表現で、お家の方に伝える姿が見られました。一つひとつの経験が子どもたちの自信へつながり、心も体も大きくたくましく成長した子どもたちです。また、少しずつ卒園や就学に向けた話し合いや取り組みも始まり、子どもたちからも話題に上がるようになりました。「給食にアイス出るんだって!」「学校楽しみ!でももう一回ありぐみしたいな」「お泊まり保育、もう一回行きたい!」と、楽しみと寂しさの中で揺れ動いている様子でした。残りの時間も一人ひとりの気持ちに寄り添い、受けとめながら大切に過ごしていきたいと思います。

お別れ会では、今まで過ごしてきた異年齢の友だちにカードをプレゼントしようと計画しています。そして、卒園式ではこれまでの思い出を“お別れの言葉”や歌の歌詞にしてお家の方に届けようと一緒に考えています。ここまで神さまやお家の方に守られ、愛されて大きくなったことに感謝し、最後まで笑顔いっぱい、元気いっぱい過ごしたいと思います。



ある日の会話です。

Aくん「先生って、小学校の  
先生になれるのかな?」

Bちゃん「なるんちゃう?この間も  
お勉強に行ってたやん!」

Aくん「それやったら、僕らが一年生に  
なったら学校に来てもらおうよ!」

Cちゃん「でもさ、1つの学校だけ行くの  
するんちゃう?  
みんな来てってなるで!」

Aくん「分かった!一日ずつ交代で来て  
もらったらいいんちゃう?」

保育者「行きたいけど、センターの  
お仕事どうしよう?」

Cくん「他の先生にお願いしたら  
いいんちゃう?大丈夫やって!」

こんなかわいい会話ができるのも  
あと少し、と思うと寂しい  
気持ちでいっぱいの  
担任でした。